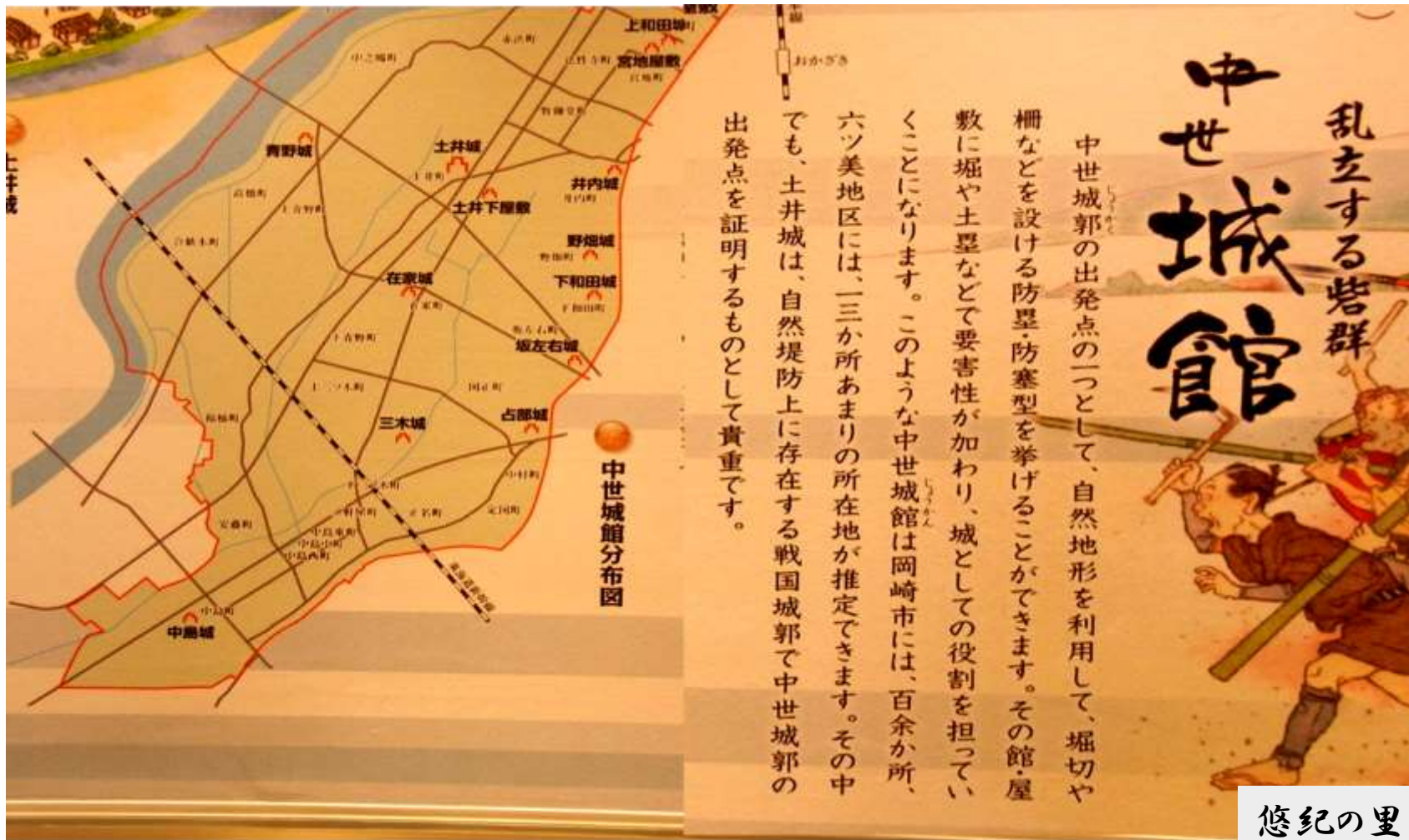


中世城館についての補足説明

引用文献・六ツ美村誌・六ツ美風土記・私達のふるさと中之郷・ふるさと六ツ美西部・六ツ美の歴史を学ぶ会 奥田敏春氏講演資料 他



p2. 上和田城

P3. 土井城

P4. 三ツ木城

P5. 在家城
青野城

P6. 坂右左城
占部城
下和田城
宮地古屋敷

P7. 中島城
(中島藩)

悠紀の里 サポーター会

中世城館の概要

- 自然地形を利用して、堀切や柵などを設けた小規模な土豪的な城・砦が戦国時代前から、六ツ美地区にも13ヶ所程度存在した
- 古地図・古文書等で、存在した場所等が比較的明確な城・砦
上和田城 土井城 三ツ木城 青野城 占部城 在家城を記載
- 織田、今川の勢力拡大の戦いにも影響され、同族間、身内間等の勢力争いが頻繁に行われた
- 主な戦いは、松平清康(家康祖父)、広忠(家康父)、初期の家康の時代
- 家康の「一向一揆の勝利」・「関東への移封」と共に城・砦的機能がほとんど消滅
- 現在の中世城館の様子は耕地整理・区画整理等の結果、当時の姿は殆ど不明

上和田城(砦)

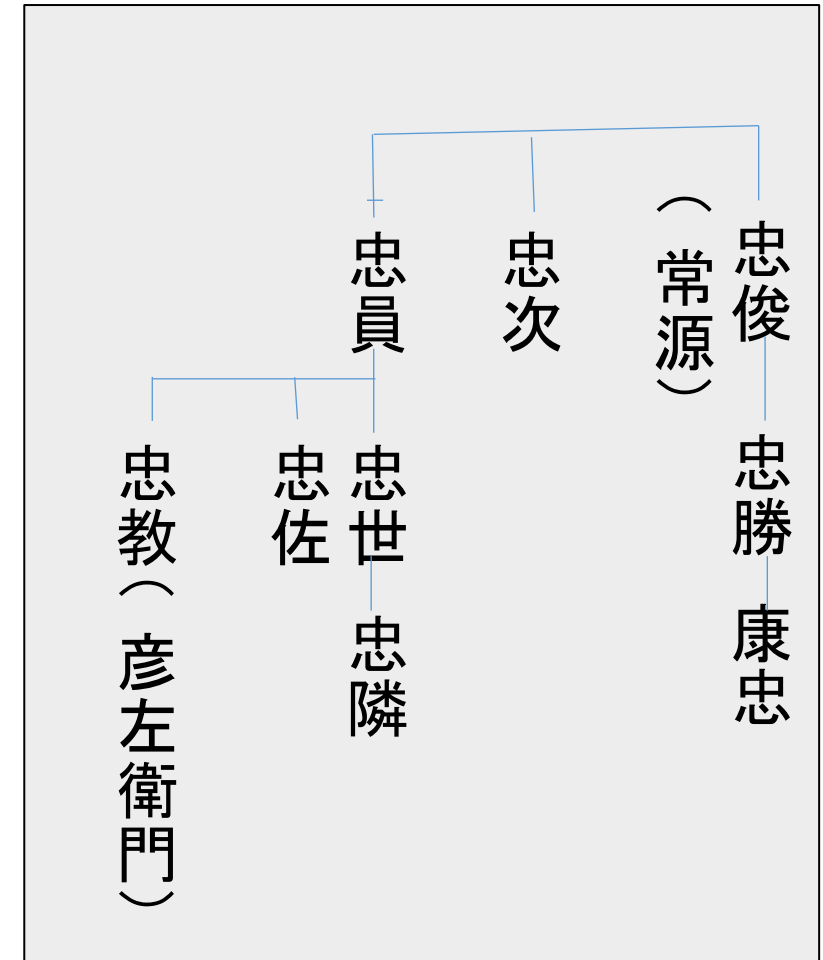
所在地 上和田町字南屋敷

- 大久保氏が築城。大久保氏は、もともとは三河の一族ではなく下野国の豪族・宇都宮氏の末裔。その後大久保氏に改名
- この城は、攻防自在の位置にあることから織田信秀等がよく根拠地とした。今川義元、織田信秀の勢力争い「小豆坂の戦い」(1542年から2回)時にも、主として信秀が居城(大久保氏は、一時 城から退避)
- 家康が岡崎城主となった後の「一向一揆」(1563～64年)の際には、大久保氏は一族を挙げて家康に味方し、上和田城が一向一揆勢を迎え撃っている
- 大久保一族がこの地を離れたのは、家康が関東に移封となり(1590年)、大久保忠世が小田原城に移った時代
- 城址の後には、残っていないが、次ページの石碑等がある

大久保一族発跡地石碑 和田城用心濠石碑



大久保氏系図1部分



土井城

所在地 土井町字西番城

- 松平長親に仕えた本多秀清が1497年に土井村に領地を賜る
- 土井城は、秀清から2代目の信重が築いたと伝わる
- 信重の嫡子である本多広孝の時、家康方につき幾多の戦いに活躍
- 一向一揆（1563年）時も、家康方で奮闘した
（家康から褒美が与えられた）
- 広孝は、翌年田原城攻略の先陣を務める等の戦功を挙げ、田原城を与えられて移り、土井城は廃城となった
- 土井城は、当時の集落の「城」とは別格な存在
- 土井城跡は、住宅地になる前に、土井町字城屋敷にわずかに認められた当時としては大きな城であった
- 東番城（宿直し警備する場所）等の地名も残る

土井城の図（古図から模写）

南北300mに及び、三つの曲輪を配置している
全域が広い水堀で囲まれていた 周囲に家臣団の屋敷を
並べていた（主家を中心に30軒ほどの砦）



自然堤防的な高台へ住居、低地を利用したの堀等、自然を有効に利用している

三ツ木城

所在地 上三ツ木町字城堀

- 三ツ木城が、戦国時代の土豪として最も形を整え、勢力を張っていたのは
松平信孝が城主の時代（1523年頃） 信孝は、清康（家康の祖父）の弟
- 信孝は、広忠（家康の父）を種々の戦いで支援していたが、本家の岡崎
城を凌ぐ存在となり、信孝を抑え込もうとした広忠側との戦いで敗れ
1548
年戦死その後2代重忠、3代忠清が、広忠、家康に仕えたが、嗣子が
なく
断絶している
- 信孝の墓は浄珠院で、観音寺に愛用したと伝えられる「熊毛の兜」がある

三ツ木城の古図と説明

主郭は水堀に囲まれ高く、周囲に帯曲輪を回していた出入口は、虎口受の曲輪をそなえていた



三ツ木城古図（岡崎市史）

○今岡竹木村
中 百姓家二軒有之
百姓 百姓
鈴木 ○ 鈴木六左五門

○ラレタル由 百姓
六左五門

三木御奉公御家隠村越久兵エ
ノ後 松平安養守仕ヘテ二千石ヲ
領シ村越○六〇〇先年三木村ヘ
ワレタル由 百姓

此城ヨリ余程隔レ二十四
神明社 並ニ円立寺アリ

竹木無之四方ハ田也

三ツ木村古城地 三木村上下ナリ
之ハ上三木村ナリ

松平藏人信孝御城跡

今如此平地ノ地ナリ

田ヨリ畑ノ方地ノ高キ

コト六尺程ナリ

四方縁通りハ一段低キ

畑ナリ

東西凡三十間程

南北凡五十間〇寸有ス

文化十五丙子歳百姓六左門

申聞候

三木御奉公御家隠村越久兵エ

ノ後 松平安養守仕ヘテ二千石ヲ

領シ村越○六〇〇先年三木村ヘ

ワレタル由 百姓

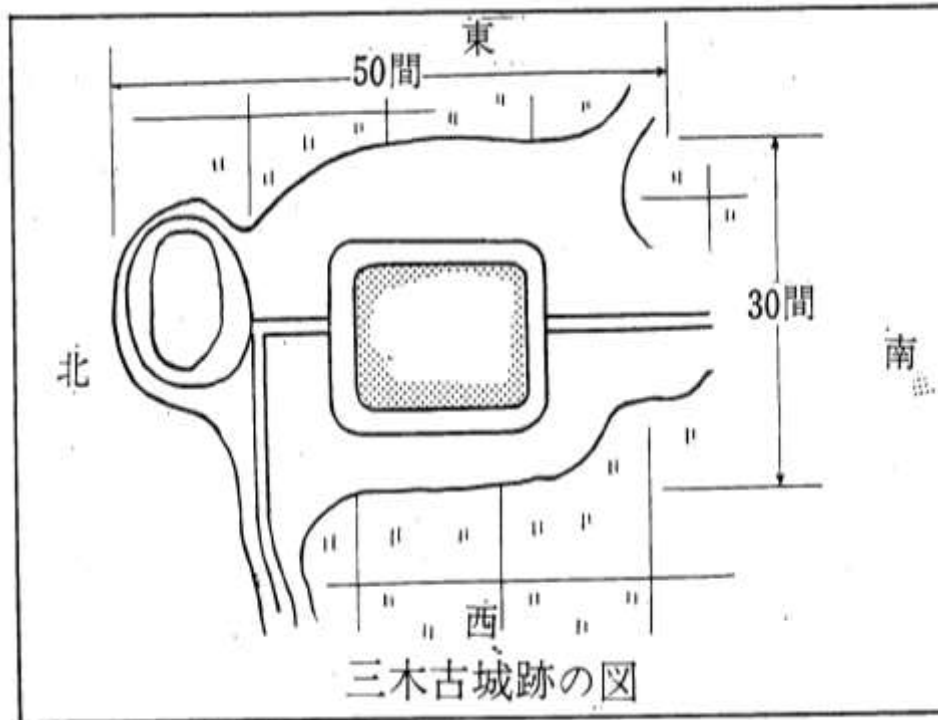
六左五門

三ツ木城写真の文字説明（上の絵の中の文字）

左図下の説明資料の抜粋

古城図は文化年代に作成

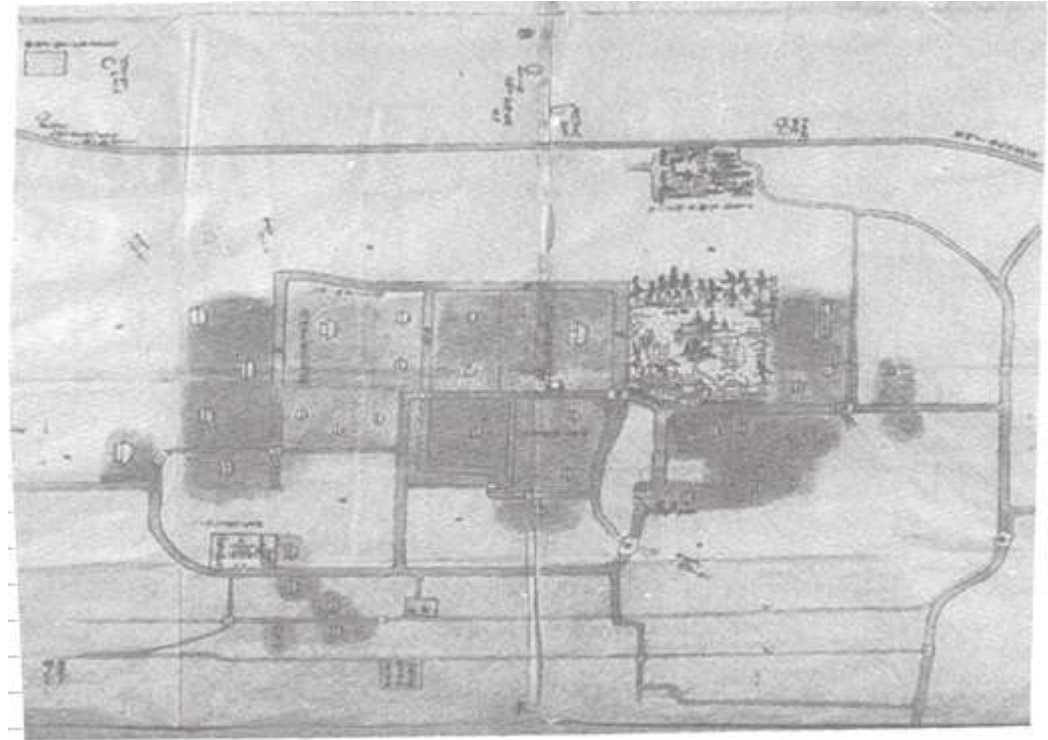
中心部は、御城のあった場所で現在は畑、周囲の田より6尺程高い。四方の縁通りは一段低い畑



在家城

所在地 在家町字西五反田

- 養楽寺の寺伝・・・「1510年に石川康長ここに住み、城の北隣にお堂を建てて養生寺と名付けた」とある（土豪程度の城）
- 周辺には、内堀、家老池、中屋敷の地名が残っている
- 右図は、在家古屋敷古地図（養楽寺蔵）



在家古屋敷古地図（養楽寺蔵）

青野城

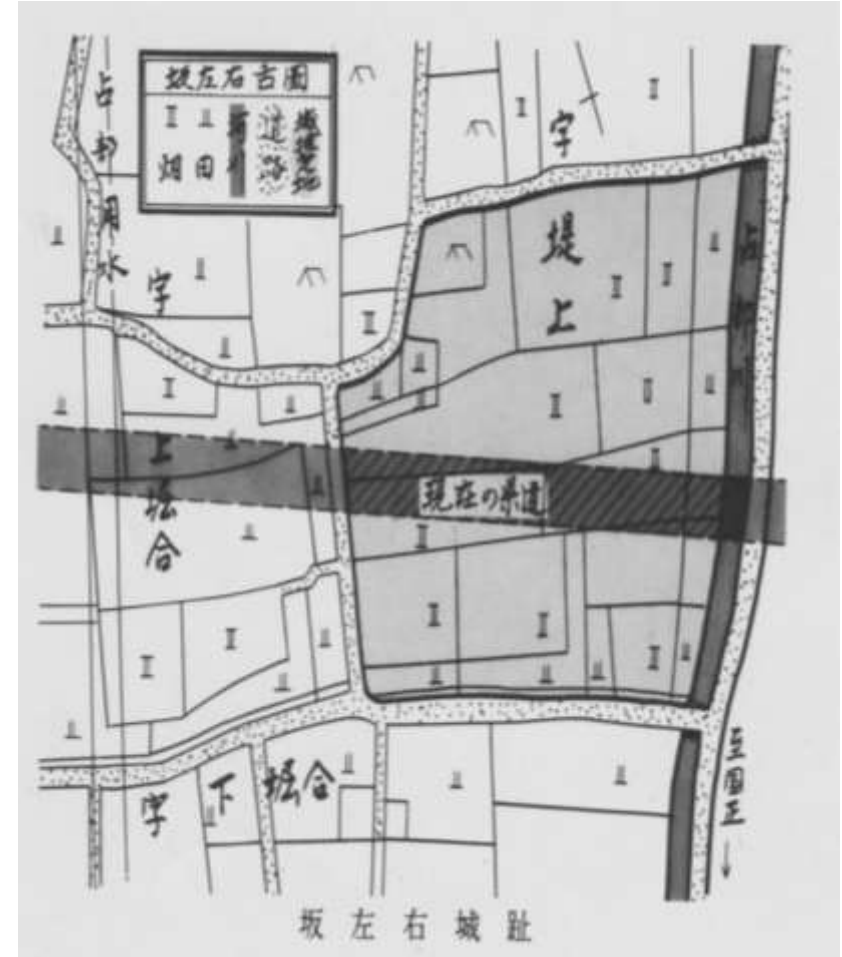
所在地 上青野町字稻荷西

- 矢作川の自然堤防の最北端の台地にあって、後ろに矢作川を控えた要塞の城
- 現在の来迎院を中心にした稲前西の付近にあったと伝えられる
- 鎌倉時代に足利氏一族が住み、城屋敷に類似したものを作った
- 松平義春が城主になったが、1556年「名之内城」の戦いで戦死
墓・位牌は来迎院にある
- 嫡子家忠は、1561年、家康の東条城攻めに参陣して活躍し、東条城を与えられた。その後、青野城は廃城
- 度々の水害で城跡は流されて形をとどめていない

坂左右城址

所在地 坂左右町字堤上

- 「三河国二葉松」には、都筑総左エ門が城主と書いてあり
- 代々総左エ門の名前を受け継いでいた
- 松平氏につかえ、本多忠勝の家来になり、本多家の家老として代々つかえた。
- 以前は周りが湿田に囲まれた高い畑があり。県道工事が行われた際に、土台石や大きなカメが発掘された地域が城址と思われる。
- 現在は耕地整理等により削られたりして、地形は変わっている。



占部城

所在地 国正町字浦辺(西浦)

☆明治17年の愛知中世城館報告には、国正字西浦にあり、小高き所に

一大石があり、近傍に古井戸2ヶ所存すると記されている

- 渡辺源次道綱が築城し、居城して「渡辺七郷」の領主となる
- 1563年の一向一揆では、渡辺半蔵守綱は、一揆方につき、家康

と対峙したが、収束後許されて徳川家臣団復帰。槍の半蔵として活躍

- 1590年家康の関東移封後、関東に移転し廃城となる

下和田城

所在地 下和田町字高畑

- 下和田字神宮寺にあった。面積は二反あまりで現在は宅地天文年間に松平忠倫が城主であった。一時は廃城になったが数年後、加藤帯刀らの居城となった

宮地古屋敷

所在地

- 大久保左京が住んでいた。その後大久保源四郎の住地と伝えられている

中島城

所在地 中島新町井龍、中島町後屋敷

(中島城は、時代を隔てて2つ存在したという説が有力)

- A. 中島新町井龍の「巴城」・・・「ともえ城」又は「は城」と読む
(1189年築城、1471年落城との記録あり 場所は明確でない)
- B. 由良平八郎が築いた中島町後屋敷の「由良城」
- ・ 戦国時代、城主の由良氏は、深溝の松平好景に攻められ落城
 - ・ 好景は板倉重定を中島城主にする その後、重定が、今川方についたため追放、
好景の嫡男伊忠を城主とする
 - ・ 「善明堤の戦い」で好景戦死 伊忠は深溝城へ
この戦いで、一族である板倉好重も戦死 (中島西町に碑があり)
(板倉好重の子供の一人が、後に京都所司代となる板倉勝重)
- ☆一時吉良氏の配下の城になったが、後に家康が奪回、その後に廃城

参考 三河中島藩について

年表には、中島藩1万石、4万石の表示があるが、城は存在せず陣屋的な屋敷のみあった

- 江戸幕府の初代京都所司代の板倉勝重の孫にあたる板倉重矩が三河深溝藩藩主から、1639年中島藩藩主となり藩庁を中島に移して立藩

⇒中島藩1万石の成立

父である板倉重昌は、深溝藩の初代藩主、重昌は島原の乱の乱鎮圧のため幕府軍の総大将として、島原城の総攻撃を行ったが成果が出なかった。1638年1月1日戦死
その時重矩も従軍していたのでしばらく謹慎を命じられたが1638年12月に解かれた

- 1665年 老中に就任
1666年 中島藩4万石となる
- 1668年 京都所司代に就任
1770年 老中に再任される
- 1672年下野烏山藩に移封、中島藩は廃藩

(重矩は、幕閣として対外に出ることが多かったことから、藩政は重臣池田